



涌谷 伊達家
九 曜 紋

郷土のかぜ

仙台市民図書館 郷土資料コーナーから

「あるデパートにあったサンタクロースのジオラマ」

郷土担当 渡邊 啓市

日々、いろいろなレファレンスを受付しますが、ある時こんなレファレンスを電話でいただきました。

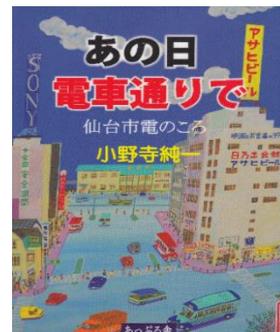
「かつて、市内のデパートの吹き抜けのところに、街をかたどったジオラマがあり、その街の中に隠れた100人のサンタクロースを探すという催しものがあったと思うが、その時の写真が見たい」というものでした。

とりあえず「河北新報データベース」で「ジオラマ」「サンタ」で検索してみたところ、平成15年11月25日付朝刊に「古き良き一番町 街角にサンタも」という見出しとともに写真入りの記事がでてきました。

その記事によると、ジオラマは星に見立てた電球1万個の下に、1950～60年代の一番町4丁目商店街をジオラマで再現したもので、あちこちにサンタクロースの人形が配されており、その人数を当てると抽選でプレゼントが当たるというものでした。そして、その記事にあった写真にはジオラマをのぞき込む男の子と後ろから抱えるお母さんの姿が写っており、この企画が商店街の振興組合50周年を記念して、青葉区在住の画家、小野寺純一さんが2ヶ月をかけて制作したものとわかりました。

小野寺純一さんといえば、広瀬図書館が発行している「図書館だより」のエッセイを連載していたり、その他にも今年の市政だより8月号「震災文庫を読む」のコーナーで本を紹介していただくなど、図書館としても大変お世話になっている方なのです。そして何と言っても、郷土の昭和を書き続ける画家としてだけではなく、書籍や雑誌などの装画、イラストなど多方面で活躍している方でもございます。もちろん、本人が書いた書籍も図書館に所蔵しておりますので、どうか手に取ってみてください。

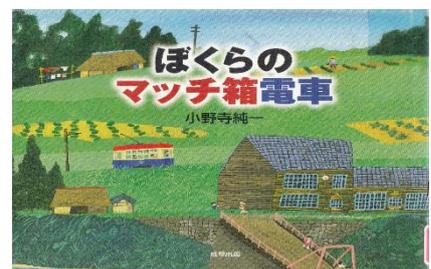
掲載された記事から18年もの年月が経ち、またクリスマスがやってきます。その時、写真に写っていた男の子も大人になっているはずです。彼は今でもあのジオラマを覚えているのでしょうか。



<参考図書>

『あの日電車通りで 仙台市電のころ』小野寺純一／著 S68オ

『ぼくらのマッチ箱電車』小野寺純一／著 S72オ



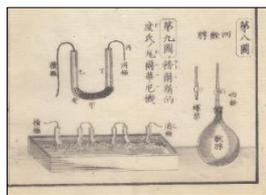
■古書紹介

『舎密開宗(せいみかいそう)』宇田川榕庵／訳 天保8(1837年) 木版7冊

郷土資料担当 八代 右子

『舎密開宗』は、イギリスの化学者ウィリアム・ヘンリーの『化学実験の概論』を原著としドイツ語訳、さらにオランダ語訳されたものを榕庵が日本語に訳した体系的化学書です。酸素・水素・窒素・酸・アルカリ・物質・燃焼・酸化・還元など、用語の多くが現在も使われていて、日本における化学の出発点といえる名著です。榕庵自身の実験記録でもあるこの書は、我が国の化学に大きな影響を与えました。

この当時の書物は【書袋】という紙製の筒状の袋に入れて販売されていました。現代の【帯】に近い感覚だったのでしょうか、大多数が失われたようですが、当館の『舎密開宗』2、7巻には書袋も完全な状態で残っています。



■新着図書紹介(郷土・参考資料コーナーに新しく入った図書)

『伝承遊び大百科—現代アレンジで遊ぶ—』 西村 誠/[ほか]編 昭和堂 R781 二

あーそびーましょ! 皆さんは、ご自分が子どもだった頃の遊びを覚えていますか? タイトルに「大百科」とあるように、ページを開くと鬼ごっこやじゃんけん、絵かき歌、石けりなど、254種類もの伝承遊びをイラスト付きでわかりやすく紹介しています。

その内容は、一人で遊ぶものから家族や友達と遊ぶもの、外遊びだけでなく家の中で遊べるものなど様々です。例えば「だるまさんがころんだ」という遊びは、鬼が唱える「だるまさんがころんだ」という言葉がちょうど10文字なので10を数えるときに使われたり、地域によって唱える言葉に違いがあり、宮城県では「くるまのとんてんかん」などが使われたそうです。

簡単にできる遊び、懐かしい遊び、誰かを誘いたくなる...そんな遊びが満載の1冊です。

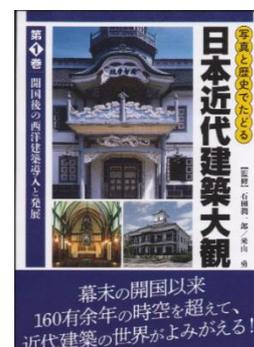


『写真と歴史でたどる日本近代建築大観 第1巻』 石田潤一郎/監修 国書刊行会 R523 シ

今では日本に当たり前存在する洋風建築。現存する最古のものは、長崎県にある「グラバー邸」だと言います。日本人は、異なる文化の建築を暮らしの中に取り入れてきました。

渋沢栄一郎や、伝統と近代が入り混じった「道後温泉本館」など、幕末～明治の主要な建築が美しいカラー写真で紹介されています。鹿鳴館を設計したジョサイア・コンドルほか人物の紹介や、歴史的背景、建築にまつわる逸話も掲載されており、建物の外観の魅力だけでなく、様々な角度から近代建築を知ることができます。

本書を読んで、「現在の建築は100年後の人々の眼にはどのように映るのだろうか?」と考えました。「建築は風景を作り、都市を構成する。」—これからの建築も、永く人々に愛されるものであってほしいと思います。



■編集後記■ 本号でご紹介した小野寺純一さんの絵画展示を4階展示コーナーにて12月26日(日)まで開催しております。年忘れに、昭和レトロを感じさせる懐かしい宮城の風景の数々を見に来てはいかがでしょうか。

発行:仙台市民図書館 郷土・参考資料コーナー

所在地:仙台市青葉区春日町2-1せんだいメディアテーク内 TEL:022-261-1585